

## 2018年度の主な事業計画書

(2018年4月1日～2019年3月31日)

森に親しむ人が増え、ふもとに住む市民に自然の恵みをもたらしている箕面の里山ですが、一方で、経済的価値の低下による森林整備の不足や増えすぎたシカによる食害などで、生態系の劣化や自然災害のリスクが増大しています。

山麓アクションプログラムに基づき、森林が持つ公益的な多面的機能を最大限に発揮できる森づくりを目的として、保全活動に必要な資金や労力を、地権者である山林所有者や行政だけに求めるのではなく、市民が中心になって、主体的に一定の役割を担う「協働」の取り組みを推進します。

### 重点方針

中間支援組織という立場を明確にして、情報の共有化や新しい活動の場づくり、人と資金の循環の仕組みづくり、山林所有者や市民団体の活動促進に注力します。

山麓部の80%の面積を占める民有地のさまざまな課題に対して、「山林所有者との関わり強化」事業を通して重点方針として着実に実行します。

中長期の数値目標・・・「自然緑地」同意率60%(現状約50%)

## ■ 主な事業計画

### 1. 広報事業（情報の共有化とPR・広報強化の事業）

(インターネットを利用した広報)

#### ①、ホームページ(山なみネット)による広報強化、及び情報公開

NPO山麓委員会の部会活動や活動団体の情報、森の自然情報やハイカーの安心・安全に資する情報を、HP「山なみネット」のブログを通じて、タイムリーな情報発信に努めます。また、公益信託みのお山麓保全ファンドやNPO山麓委員会の情報、明治の森箕面自然休養林管理運営協議会の活動などの情報公開に努めます。

【予算額】 220千円

(紙媒体などによる広報)

#### ②、全世帯向け広報

全世帯対象とした箕面市の広報紙に、公益信託みのお山麓保全ファンドの活動助成や「箕面の森の守りびと」募金、「山林所有者の悩み相談会」などの広告掲載を年1回行います。

※箕面市広報紙「もみじだより」2月号の1ページ広告掲載

【予算額】 151千円

#### ③、ニュースレターの発行

タイムリーな箕面の森の自然情報や保全活動の情報発信を行います。ニュースレター「山なみ通信」を年4回(7月・10月・1月・3月)発行し、箕面の森の守りびと(公益信託みのお山麓保全ファンドサポート会員)などを中心にDMを送付する他、多くの市民や関係者に配布します。

【予算額】 124千円

(イベントを通じた広報)

#### ④、イベントの開催・出展

箕面市と共催で、11月3日に「山とみどりのフェスティバル」を開催し、自然やみどりに親しむ体験イベントを行う他、参加された各団体の活動PR・広報に注力します。

箕面駅前ステージで、街なかのみどりを保全する団体と連携する他、10月末に滝道の通行禁止が解除される計画であることから、山のみどりに親しむ人を増やすための開通記念イベントに協力します。その他、「滝道ふれあい広場」や「箕面の森の音楽会」などの活動に協力します。

11月11日(日)には、箕面文化・交流センター地下1階で、里山の生物多様性の保全を目的とした研究フォーラムを開催します。 ※市民イベント事業収入469千円【予算額】 258千円  
(注記)予算額は直接費です。人件費などの費用は入っていません。

## 2. 山麓保全交流事業(情報の共有化と意見交換による新しい活動の場づくり事業)

### ①、明治の森箕面自然休養林管理運営協議会の活動

国有林及びその周辺を対象として、林野庁や府、市などの行政と市民団体が構成する協議会の事務局を担い、自然休養林の保全と活用を目的とした同協議会例会を年7回開催します。行政との情報の共有化や意見交換を前提として「シカによる食害」「外来生物」「災害に強い森づくり」「ナラ枯れ防止」「環境教育」などをテーマとして年6回開催する分科会に協力します。

※明治の森自然休養林管理運営協議会事務局収入 70千円

### ②、山麓ファンド助成団体の報告及び交流活動

山麓ファンド助成団体の申請内容の活動報告を中心として、新規に助成採用された団体の活動紹介を含めて、箕面文化・交流センター地下1階で活動報告・交流会を行います。

※年1回、6月24日(日)

## 3. 山林所有者関連事業(山林所有者との関わり強化事業)

### ①、山林所有者へのPR・広報

山林所有者の「自然緑地」同意率60%(面積比)を目標に、新稲、坊島、白島、粟生外院などエリアごとに山林所有者に連絡を取るなど、個別対応を中心としてPR・広報を行います。公益信託の助成の仕組みや山林整備サポーターの取り組みなどを説明して、自然緑地の同意とファンド助成申請による山林整備を推進します。

### ②、山林整備サポーターの派遣

「山麓ファンド」の助成を受けた山林所有者の山林整備作業を手伝うボランティア派遣を強化します。山林所有者からの要請件数40件以上を目途として、多くの里山管理ボランティアの協力を得て実施します。

### ③、山林所有者の悩み相談

年2回(7月・2月)山林所有者を対象とした悩み相談会を行います。境界確認など、さまざまな悩み相談に対応します。課題である「山林の寄付の受け皿づくり」については、公益社団法人大阪自然環境保全協会と連携して対応します。(現在2件の山林所有者の要望に対応中)

## 4. 「山麓ファンド」への募金活動(人と資金の循環の仕組みづくり事業)

「箕面の森の守りびと」(公益信託みのお山麓保全ファンドサポート会員)を、目標250人募金額100万円以上を目標に、活動のPRや募金活動を強化します。 【予算額】 65千円

## 5. 人材&活動組織の育成事業

### ①、「みのお森の学校」による山麓保全活動の人材育成

人と自然の入門講座である「みのお森の学校」をさらに充実し、年10回から年11回講座に拡充します。仲間づくりや活動団体の紹介など、実行委員会方式で、人材育成に注力します。

※人材育成事業収益(受講料収入) 260千円【予算額】 202千円

### ②、「山麓学習(箕面の自然学習)」を担える人材の育成

スクールインタープリター養成講座については、学校での活動だけでなく、野外で自然観察会を担うことができるインタープリターを養成することを目的として開催します。

【予算額】 68千円

### ③、新たな市民ボランティア組織の立ち上げ支援

新規に立ち上がった活動の支援を継続するとともに、各種交流事業での意見交換や森の学校の卒業生などを対象として、新しい市民ボランティア組織の立ち上げ支援を行います。

## 6. 企画及び調査・研究事業

### ①、「ナラ枯れ」被害防止の活動

2017年度に枯死木が激減した大きな成果が得られているナラ枯れ防止グループによる活動を継続します。ナラ枯れ被害の発生状況を把握するとともに、2016年から始めた防虫ネットによる予防を中心としたきめ細かい活動を継続します。

※受取寄付金 70千円(予定) 【予算額】 261千円

### ②、生物多様性の保全に向けて

行政や大阪府の生物多様性センター及び市民団体と連携して、モニタリング調査のための自動撮影カメラの運用に協力して、「シカによる食害」対策を継続します。

また、明治の森箕面自然休養林管理運営協議会や2018年4月に独立した団体となった「生きもの会議」と連携しながら、生態系に大きな影響を与えている外来生物問題を研究します。

## 7. 「山麓ファンド」助成事務サポート事業

### ①、助成申請の受付や活動促進など

【予算額】 312千円

「山麓ファンド」の助成申請の広報、申請書の配布と受付、申請の相談、及び助成申請を審査する運営委員会の資料作成など、山麓ファンド助成サポート事務を行います。

市民団体による活動や、山林所有者の「自然緑地」の同意を前提とした助成申請による山の手入れの活動を促進します。

### ②、助成事業の支援や進捗確認など

「山麓ファンド」の助成を受けた団体や山林所有者による活動支援や、活動の進捗確認、提出された報告書のチェックなどの業務を行います。

## 8. 箕面ビジターセンター企画運営事業

現在、大阪府から受託している箕面ビジターセンターの企画運営事業は、2018年9月末をもって契約期間が終了します。市民・府民からの評価や期待が高いことから、次期の契約についても応募して受託したいと計画しています。

\*10月以降の事業内容は、大阪府による仕様書により変更する場合があります。

大阪府から受託した箕面ビジターセンターの企画運営事業(2018年9月まで)を着実に実行するとともに、明治の森箕面国定公園の拠点施設としての機能強化に努めます。

※箕面ビジターセンター事業収益3,300千円 【予算額】 1,873千円

(注記)予算額は直接費です。人件費などの費用は入っていません。

### ①、自然解説活動

※2018年4月～9月

自然解説活動として、土日・祝日を中心として夏休みの平日を含めた「86日以上」の自然解説員の派遣、「19回の自然観察会の開催」「2回の自然情報誌箕面ビジターセンターだより季刊号の発行」(各2,500部)、及び季節に応じた展示室の「企画展示」など、市民ボランティアや市民団体、及び行政との協働の中で着実にいきます。

### ②、企画活動

定期的な「友の会」(企画会議)を開催し情報の共有化や意見交換を行いながら、改善を図ります。あわせて企画運営業務全般を対象とした専門スタッフを置くことにより、業務のスピードアップと中長期の企画運営業務の立案を進めます。

### ③、PR・広報活動

ホームページ「山なみネット」による活動紹介や季節の情報発信を行う他、山間・山麓部でのハイキング道の安心・安全情報の発信に注力します。

## 9. 自主事業の育成

### ①、「みのお森のセラピー」の事業化の検証

・自主事業としてNPO法人の経営に資する基盤を確立するために、人材育成と集客力の強化を図るとともに効率的な運用を行い、事業効率の改善を行います。  
・森のセラピー活動のPR・広報を目的として、阪急阪神ホールディングスの「ええまち作り隊」の支援を受けて、勝尾寺園地で、森のセラピーを行います。※4/22、26名の参加で実施済  
※参加費無料、阪急阪神ホールディングスの助成金108千円を活用  
・箕面森林ふれあい推進センターの「森林ふれあい推進事業」の支援を受けて、年3回(春1回秋2回)の特別企画を実施します。

・2018年度の活動の結果により、自主事業として継続するか、独立した団体としてファンド助成を活用して活動する団体とするかを検証します。

※森のセラピー事業収益(参加費収入) 210千円【予算額】 209千円

## ■ 事業推進のために(一般管理 & 組織運営 について)

### 1、事務局体制の安定・強化と財務体質の改善

#### ①、事務局体制の安定・強化

部会活動と事務局、職員とボランティアスタッフなどの役割分担を明確にして、事務局体制の強化と業務のスピードアップと効率化を図ります。

#### ②、ITを活用した各種データの管理・活用の強化

2017年度に導入したSalesforce(クラウド型)による山林所有者データや会員、寄付者などの各種データ管理の適切化、及びデータ活用の生産性向上の強化を図る。

#### ③、財務体質の改善

課税対象となる収入が1,000万円を超え、約40万円の未払い消費税を計上する必要がある見直すとともに、収入増を図り、持続可能な財務体質に改善します。

### (組織運営)

### 2、情報の共有化とネットワークづくり

ホームページの情報鮮度の高いページ更新、山なみ通信の配信、協議会や連絡会の活動などを通じて、広く市民や行政、山林所有者の理解を得ながら、活動のネットワークづくりに注力します。

### 3、ボランティアが推進する前向きな組織づくり

基本的な方針や情報を共有し、それぞれが主体となり役割分担を明確にして、段階的にできることから始めて、持続的な活動が可能となるような前向きな活動組織づくりを行います。  
また、事務局や特定の個人に活動が集中することのないように配慮し、理事や会員が主体的に行動を起こすなど、ボランティアが推進する組織作りを行います。